いちかわ一期一会

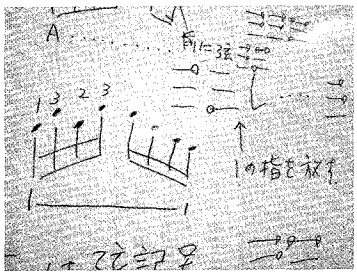
楽譜点訳の会「ポコ」

駅の券売機などでなじみがある点字。これは表面に飛び出た6つの点を組み合わせてつくられる、指先で触って読む視覚障害者のための文字です。

今回は、その点字の中でも楽譜に的を絞った点訳の会「ポコ」代表の長谷川明子さんにお話を伺いました。「ポコ」はイタリア語で少しずつという意味の音楽用語「ポコ・ア・ポーコ」から名づけられました。目の不自由な人たちが音楽を通して社会参加できるように、社会との接点を一歩ずつ広げられたらとの願いが込められています。

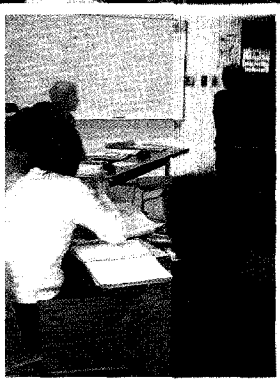
1991年に設立したポコには現在約30名が在籍していますが、主に活動に参加しているのは20名ほど。日々学びながら楽しく活動しています。

楽譜の点訳というと、音楽に通じた人でないとできないかな?と心配になりますが、長谷川さん自身もお子さんが小さかった頃に楽器を習っていたことがある程度で、ご自身が音楽に精通しているというわけではないそうです。もちろん楽譜を点訳するうえで必要に応じて学んでいくので音楽の知識も自然と身につきますよとのこと。



日本語や英語を点訳する人は全国に多くいますが、楽譜というと難しそうだというイメージがあり、「みんな敬遠しがち」で人が集まらないという現状があるようです。

しかし、目の不自由な音楽家のみなさんからの楽譜点訳のニーズは多く、ポコが行う楽譜点訳は、年間で約400曲。日に1曲は点訳している計算で、紙の枚数にすれば、年間4000枚程度だそうです。これを聞いて紙に針のようなものでパチン、パチンと穴を空けるのは大変だろうなぁと思ったみなさん、文明は進化しています。ポコではパソコンを使って点訳を行っています。取材におじゃましたときも専用のプリンターから点訳された紙が次々にプリントされていました。



月に2回の定例会

ユーザーのみなさんは、少しでも早く点字楽譜を手にしたいと希望されているので、その期待に応えるように出来るだけ早く対応しているうちに、依頼がどんどん増えていったということです。

楽譜の点訳の場合、「ソ」と演奏するためには、その中にいろいろな情報を入れなければなりません。「かわいらしく」など音の表情も入ります。言葉の点字と違うのは、音符一つに関わるたくさんの情報があり、どの順番で伝えれば分かりやすいかなど考える必要があることです。そして今まで培ってきたそのルールを覚えることが楽譜の点訳の基本になっていきます。ポコの定例会では、メンバーが楽譜点訳を行った際に気になったことや悩んだことを話し合い、メンバーみんなの知識を向上させていきます。

コンサート風景

「ポコの会で点訳した楽譜が滞りなくユーザーのみなさんの手元に届いて、音楽を楽しんでもらえるのが一番のやりがいになっています」と長谷川さん。

2006年度、ポコでは子どもたちと視覚障害をもつ音楽家との出会いの場になればと、コンサートを3回企画しています。昨年10月には市川公民館で、そして12月には木内ギャラリーで行いました。3月にも予定していますので、一度演奏を聴きに行ってみてはいかがでしょうか?

「楽譜点訳を通して様々な挑戦ができるし、たくさんの出会いがあります。視覚障害をもちながら音楽を演奏しているみなさんは、本当に頭が良くて努力に努力を重ねています。ユーザーさんの姿やなにげない会話から人生に活かせる多くのことを学べるし、一緒に楽譜点訳をする気持ちの良い仲間もできます。それに日本語の点訳は日本でしか通じないけど、楽譜点訳は世界に通じますよ」と、長谷川さんはニッコリ笑顔で話してくれました。

点訳の入力はパソコンで行うので、自由に使えるようになるまでは、長谷川さんをはじめポコのメンバーが教えてくれます。この記事を読んで興味を持たれた方は、ポコの活動に参加してみてはいかがでしょうか? 活動は主に第1、第3金曜日の午前中。どのように点訳すればわかりやすくできるのか? 勉強会も月に2回あり、それにできるだけ参加することが入会への道。会でチケットを用意してコンサートに出かけたりもしているそうです。

2007年、みなさんによい一期一会が生まれることをお祈り申し上げます。

(一期一会ライター　斉藤順子)

この日に集まったポコのメンバー

楽譜点訳の会「ポコ」
連絡先　☎047-372-4038（長谷川）
Eメール　GAF03150@nifty.com
HP　http://gakufupoco.web.fc2.com/